

本校福祉科の生徒の活動が、南日本新聞に掲載されましたので紹介します。

さつま町内の障害福祉事業所などを紹介する冊子「音色」Ⅱ写真Ⅱが完成した。町と薩摩中央高校福祉科(同町虎居)の生徒が共同で作成し、利用者の声や業務内容のほか、各施設を取材した生徒目線の見どころも載せ、魅力を発信している。新型コロナウイルス禍で利用者や働き手の確保に悩む事業所を支え、福祉現場への理解を促そうと町が企画。感染防止対策のため、施設での実習

生徒目線で福祉事業所紹介



冊子の作成に携わった薩摩中央高校福祉科の生徒ら
＝さつま町虎居

に苦慮していた同校生徒にも取材などで協力を求めた。

薩摩中央高生とさつま町冊子共同作成

冊子は3月末に完成。町内の14事業所に加え、町を中心とする福祉関係

の9カ所の学校や団体も掲載した。各施設を写真入りで紹介し、働く職員の印象や施設設備などを生徒が案内する。町ホームページで閲覧できる。取材に参加した3年の日高菜々子さん、2年の田島心音さんは「利用者と職員とのコミュニケーションの大切さなど学ぶことが多かった。見た人が各施設に関心を持ってくれればうれしい」と話した。

(山田天真)